



2016年(平成28年)
10月1日
第5号
発行所
〒632-0018
奈良県天理市別所町80-1
天理医療大学内
天理医学技術学校同窓会事務局



天理医学技術学校同窓会
電話0743-63-7811
www.teniko-dousoukai.jp

天理医学技術学校同窓会の今後

天理医学技術学校 同窓会長

市村輝義

二期生、現関西医療大学保健医療学部 教授
元天理医学技術学校 副学校長



同窓会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。

本校が閉校し、早二年半が経ちました。天理医療大学は四年目の完成年度を終え、五期生の臨床検査学科入学生二十二名がスタートしました。今春の国家試験は、残念ながら八年間続いた100%の達成は難しかったようです。(86.5%)

昨年度の同窓会の大きな仕事は、医療大学卒業生をどのような形で同窓会を発足させるかの検討でした。天理医学技術学校同窓会、天理看護学院同窓会、天理医療大学の三者で何回か検討を行いました。基本的には次の点で合意し、同窓会を継続すること

を、それぞれの同窓会役員会で同意を得ました。

①将来的に「天理よろづ相談所学園同窓会」(仮称)として平成31年度頃を目安に「同窓会」(仮称)の正会員として所属する。

②①までの期間、天理医療大学同窓会は、「天理医学技術学校同窓会」または「天理看護学院同窓会」の正会員として所属する。

③永久会員会費(卒業時納金)は、一万円とする。(現在、天理医学技術学校同窓会は四万円、天理看護学院同窓会は一万円、天理医療大学同窓会は一万円)

④各同窓会は、それぞれの総会において、会則等の審議を行い、平成29年度から新たな会則で活動する。

⑤平成28年度の本同窓会は、暫定的に天理医療大学臨床検査学科第一期生(今春卒業生)を受け入れ、正会員として参加してもらうものとする。以上の件については、本同窓会は、平成29年3月の総会において審議し、承認を得るものとする。

平成24年度から同窓会役員として携わってきた現役員も、平成28年度をもって5年間の任期満了となります。今期は同窓会誌「一

手一つ」を毎年一回発行し、同窓会を含む天理医学技術学校および天理医療大学の現状と報告等を掲載させていただきます。また、ホームページも継続し、時々情報を提供し、フェイスブックでもお互いに情報交換をしていただきたいと思います。

会則4条3号(総会は五年以内に一回開催)により、**平成29年3月25日(土)**に「天理医学技術学校同窓会総会」を開催する予定です。詳細については、最終ページをご覧ください。是非、参加いただけますよう、今からご予約をお願いします。お待ちしております。

皆様のご健康とご多幸、ご活躍を期待致します。(この内容は、同窓会ホームページにも掲載いたしました。)

平成27年同窓会 事業報告・会計報告

平成27年4月1日～平成28年3月31日までの活動報告をさせていただきます。

一、役員会議開催

次の通り、計2回開催した。

○第1回役員会

会期：平成27年5月30日(土)
15時～17時30分
場所：天理医療大学305研究室
出席：市村、木寺、森嶋、長岡、福田、小松
欠席：益田(旧姓脇本)
会議内容

- ①平成26年度収支報告
- ②閉校記念誌発送と寄付入金入金状況
- ③総会開催について

④天理医療大学第一期卒業生の入会について

⑤「一手一つ」第4号の内容について

○第2回役員会

会期：平成28年3月26日(土)
15時～17時

場所：天理医療大学同窓会室
出席：市村、木寺、益田、長岡、小松
欠席：森嶋、福田
会議内容

- ①平成27年度同窓会事業計画、予算
- ②天理医療大学第一期卒業生の入会
- ③総会開催について
- ④「一手一つ」第5号の内容について
- ⑤役員改選について

二、閉校記念誌発送と寄付入金状況

410冊発送(天理教関係者19、よろづ相談所関係者38、臨床検査技師養成校23、医技校教職員26、卒業生130)、不在17名、郵便局預かり15名であった。寄付入金者数26人、3月末を以て寄付入金を締め切った。現在200冊ほど同窓会事務室で保管されている閉校記念誌を、追加で発送する施設の再リストアップを行った。現在、住所不明につき発送が完了していない同窓生は50名となっている。

三、「一手一つ」第3号発行

前年度3月22日に行われた、「天理医学技術学校閉校式」の特集を組んだ。当日のフォトギャラリーを掲載した。発送時期は閉校記念誌と同じとした。

四、同窓会ホームページの更新

<http://teniko-dousoukai.jp/>
ホームページを3回更新した。アクセス総数3253回(9月1日現在)

閉校記念誌に関するお知らせ



閉校記念誌が未着の方は送付しますので事務局へお知らせください

平成27年度 天理医学技術学校同窓会収支報告

収入の部	
前年度繰越金	2,646,034
利息	303
合計	2,646,337
支出の部	
HP管理料(¥2700×12ヶ月分)	32,400
「一手一つ」印刷代	21,394
「一手一つ」宛名用ラベル代	3,900
「一手一つ」郵送代	144,645
天理医療大学 学位授与式お花代	5,400
次年度繰越金	2,438,598
合計	2,646,337

五、Facebookの更新
 オープンアクセスページに、同窓会長挨拶、「二手一つ」(第4号)發送案内、検査技師就職案内、総会開催案内について書き込みを行った。
 クローズドページ(Facebookユーザーの同窓会員限定用)には、総会開催案内について書き込みを行った。現在の登録ユーザー108名(9月1日現在)
 六、平成27年度会計報告
 平成27年度は左記表通りの収支となった。

天理医療大学卒業生より

天理医療大学 医療学部 臨床検査学科

第1期生 茶木善成



私はこの3月に第1期生として天理医療大学を卒業し、現在は天理よろづ相談所病院にて勤務させていただいています。天理で学んだ4年間は、私にとって非常に大きなものとなっております。本学の特色である「自律と協働」。これを実感できたのは、大学4回生の後半でした。国家試験に向けて勉強する際、天理医学技術学校に習いグループを作り学生同士で教え合う形式で推し進めましたが、クラス全体として成績が思うように伸びず悩んでいたときのことです。グループの配員、勉強の方法、取り組む姿勢など、授業終わりに幾度となくクラス全員で話し合いの場を設けました。多数決ではなく全員の意見をできるだけ反映し、先生方はそれに合わせて真摯にサポートしてくださいました。4年間の講義や実習、学生生活を通して協働・自律する力を養えたからこそ実現できたことだと思っています。支えてくださった皆様に本当に感謝しています。現場に出てもこのことを忘れず切磋琢磨し、母校の理念である「人に尽くすことを自らの喜びとする」を胸に頑張りたいです。

専門学校から大学になりましたが、臨地

実習の際に先輩から「後輩であることに変わりはない。私たちも学生の頃、先輩の技師さんに指導してもらったから今がある。だから私も後輩である君たちに指導するのは当然のことだ。」と声をかけていただいたことが、強く心に残っています。また、第1期生の友人たちが就職した病院で医技校の先輩に大変お世話になっているとの話をよく伺います。天理から繋がる輪が、私たち後輩にとって大きな支えとなっております。これが天理の素晴らしいところであると思います。経験が浅く駆け出しの私たちではありますが、この伝統を引き継ぎ努力していきたいと思えます。

この3月に、私は天理医療大学同窓会長に就任致しました。天理医学技術学校と天理看護学院の伝統と歴史を胸に、未永く同窓生が繋がっていただけるよう、後輩たちへ届けられるよう、役員・同窓生と共に歩んでいきたいです。皆様の御理解と御力添えのほど何卒よろしくお願い申し上げます。



第62回臨床検査技師国家試験の会場にて

天理医療大学第一期生就職・進学先一覧

就職

- 奈良県
 - 天理よろづ相談所病院
 - 高井病院
 - 平成記念病院
 - 済生会中和病院
 - 奈良県立医科大学附属病院
 - 大和高田市立病院
- 京都府
 - 京都第二赤十字病院
 - 蘇生会総合病院
- 大阪府
 - 大阪みなと中央病院
 - 大阪医科大学附属病院
- 滋賀県
 - 滋賀医科大学附属病院

- 和歌山県
 - 日本赤十字社和歌山医療センター
- 三重県
 - メディック津ラボ
- 東京都
 - ファルコバイオシステムズ東京研究所

進学

- 京都大学大学院
- 神戸大学大学院
- 京都保健衛生専門学校
- 大阪ハイテクノロジー専門学校



天理医療大学 第一回卒業式(平成28年3月12日)

施設だより(静岡県)

浜松医科大学医学部附属病院 検査部
主任臨床検査技師
第26期生 名倉理教



私は平成7年、26期生として医技校を卒業し、地元である静岡県浜松市の浜松医科大学へ就職をいたしました。静岡県は東西に直線距離にて、県域の東西が55km、南北に118kmと広大な県域となっていて、浜松市は県の西部に位置し、当院はその西部地域における基幹病院(61床)を担っています。

当院検査部は、常勤医師3名、常勤職員27名、非常勤職員15名の計45名のスタッフで構成されています。2014年には臨床検査室の国際標準ISO15189を認定取得し、品質保証された検査結果を維持するため、全スタッフがQMSを理解し日々努力しています。

また、大学病院の大きな根幹は、「診療」「教育」「研究」の3本柱であるため、当院検査部においても遺伝子検査を中心に先進医療など様々な活動に取り組んでいます。私は微生物検査室に配属となり15年を経過しますが、リアルタイムPCR法によるEBウ



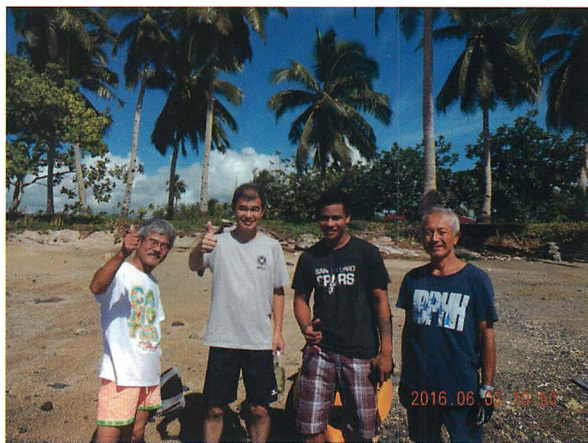
浜松医科大学医学部附属病院 全景

イルス感染症診断やCYP2C19遺伝子多型に基づくテラーメイドのピロリ菌の除菌療法、C型肝炎治療法選択の為の遺伝子検査(IL28Bの遺伝子多型)などの個別化医療。ニューモシスチス肺炎に関する臨床研究や静岡県内の疫学的解析など患者のみならず地域医療全体の質の向上に繋がるような研究にも参加しています。

静岡県における医技校卒業生は数少ないですが、県の技師会や研究会で活躍しています。

まだまだ夢の途中です 〜サモアからの便り〜

JICA Samoa, Senior Volunteer
第13期生 中島康仁



サモア独立国サバイ島にて(中島さん、左から2番目)

Mallo(サモア語で「こんにちは」という意味です) 皆さん、お元気ですか。現在、私はJICAボランティアとしてサモア国立病院の臨床検査室で働いています。

海外活動に挑戦するまでの道のり

さて私がいつ頃から海外に興味をもったかと考えてみると、授業でアフリカ・コンゴでの医療巡回の活動を聞き、何となく僕も行ってみたい、と思ったことを記憶しています。しかし学生時代の私は勉強もせずになんて現実的ではありませんでした。そんな私ですからいろいろな方のご尽力を頂きなんとか松下病院に就職させてもらうことが

出来た、というのが正直なところです。

さて就職して約10年を経た時に臨床化学の研修会に参加しました。その中である講師の方が、「上を目指さない。まずは一級臨床病理技術士を取得しなさい。そして学位を取得しなさい。そしたら「次の世界」が見えてきますよ。」と言われたことが強く印象に残りました。その言葉に刺激を受けました。臨床化学の一級試験への挑戦がはじまりました。やっとの思いで一級を取得したものの基礎学力、語学力不足を痛感させられました。そこで佛教大学英文学科で英語と文章の書き方を勉強し、その後、専門的な技術や論文の書き方は大阪教育大学大学院修士課程、大阪大学大学院博士課程で学び博士号を取得することが出来ました。よくよく考えてみると一級臨床病理技術士受験を決心してから、20年の月日を要していました。この博士号を



サモアにある病院の検査室のみなさんと



サモア独立記念日のJICAでの行進

取得したことを誰よりも喜んでくれたのは、その時まさに死の床にあった父でした。母は既に他界していたのですが、何よりも、あの世で待つ母のもとに行く父に、私の博士号取得という土産話を持たせてやれたことを嬉しく思いました。その父が「そこまでやったんだつたら、やつてみたい事にチャレンジしてみたら」と言い残して他界しました。今でも「次の世界」が「国際貢献」なのかはわかりません。しかし結果的に父の言葉が私の背中を押すこととなり、学生時代に何となく描いた夢に33年間働いた経験と臨床化学一級学位取得というプライドを握りしめ、開発途上国の臨床検査の発展をお手伝する、という目標を掲げてJICAのシニアボランティアとして海外に挑戦する決意をしました。

サモアってどんなところ

ここで少しサモアを紹介させていただきます。サモアは南太平洋にある面積が2935km²(日本の鳥取県より少し小さい)の島国で、ポリネシア系の人々18万2千人がウポル島とサバイイ島等に住んでいます。公用語はサモア語と英語で、サモア人同士はサモア語で喋り、私たちに對しては英語で話してくれます。宗教はほぼ100%がキリスト教で、日曜の午前は家族揃って着飾って礼拝やミサに出かけます。サモア人は見た目のふくよかな人が多く、人口の80%が肥満であり、生活習慣病対策が課題となっています。経済は消費財の多くを輸入に頼るため慢性的な貿易赤字を抱え、その赤字をニュージールランドや米国など移民の送金により埋め合わせるという状況です。貧困の人口割合は26%となっており、貧困層の割合は農村部で高い傾向が見られます。そんなサモアは開発途上国と評価される国ですが、フレンドリーな国民性で治安がよく、「最後の楽園」といわれるくらいの美しい自然が残っています。

サモア国立病院の検査室

私の配属先はサモアの首都、アピアにある国立病院の検査部門です。国立病院は200床の総合病院で2013年に中国資本で新築された綺麗な病院です。検査室は細菌、血清、生化学、血液、輸血、病理の各部門があり、病理を除く部門がワンフロア化されています。尿検査は細菌検査で行い、生理検査は検査技師の業務範囲に含まれないことが日本の検査室とは違っています。

検体数は国立病院の入院・外来および地域の医療機関から依頼された一日平均100人

分を処理しています。測定項目は基本的な項目のみで特殊検査はニュージールランドに委託しています。検査機器は導入されているものの、臨床検査システムを導入するには至っていないため、分析機から打ち出された結果を検査室内のパソコン(エクセル)に入力することで記録とし、依頼書にホッチキスでとめるもしくは転記することで報告書としています。

検査室の多くの技師はニュージールランドをはじめとする海外で教育を受け、分析機器・試薬等はニュージールランドからサポートを受けています。各技師は卒業教育として技術レベル向上を目的としてニュージールランドに拠点をおくPPTCプログラム(PACIFIC PARAMEDICAL TRAINING CENTRE: WHOの検査技師養成機関)に参加しています。また内部的にも毎週金曜日にカンファレ



クリスマス前の検査室

ンスがあり、検査室のスタッフが発表をしたり他部門の医師を招いたりして勉強をしています。

活動の現状

このように検査室はニュージールランドの影響を受けているので、「日本はこうだ」とか「私はこう考える」という事を言ってもなかなか受け入れられるものではありません。まして私の語学力は高くないものですから、微妙な思いをなかなか伝える事ができません。おまけに国民性の違いもあり、もどかしい日々を送っているのが現状です。お世辞にもサモアの臨床検査に貢献するなんて言えません。何度、荷物をまとめて帰ろうかと思っただことか。でも何かの時に皆から笑顔で「YASU(サモア人にこのように呼ばれています)Fa'afetai!(ヤス、有難う)と言ってもらえると、嬉しくなつてまた頑張ろうと思います。このようにまだまだ夢の扉を開けるには、時間がかかりそうですが、自分の可能性を信じて、もう少し「次の世界」を追い続けたいと思っています。

私の日々の生活の様子や検査室の情報は、実名は明かしていませんが拙速なブログ <http://yasusan.cocolog-nifty.com/blog/>にて公開しています。

お時間のある時にでも見ていただき、fwzh2544@mb.infoweb.ne.jp に叱咤激励のメールを頂ければ、有難く思います。

また世界のどこかで同窓生の皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

Fa soifua

(サモア語で「さようなら、またね」という意味です)

被災地で勤務している同窓生より

東日本大震災から5年が過ぎて

株式会社中央臨床メディエンス

第36期生 千枝貴幸



2011年3月11日午後2時46分、夜勤に備えて睡眠をとっていた私はそれまで聞いたことのない携帯電話の音に目が覚めました。携帯電話の画面を見ると、「緊急地震速報」、その後今まで体験したことのない大きな揺れがきました。私は内陸に住んでいたために津波に襲われることはありませんでしたが、動いては危険だと思わせるほどの地震は初めてでした。揺れが収まり、何が起こったのか確認しようとテレビを付けようとしたが停電で見ることができず、建物がかきしむほどの余震も頻発していたため、外に出て状況を把握しようとしてしまいました。近隣住民の人たちも同じように出ていて、周辺を見ると信号は停電により消えて、交差点では混乱しているのが分かりました。

会社に駆けつけると、職員が外に避難していました。検査室内に入るとほとんどの検査機器は停電により止まってしまっていて、バッテリーの内蔵されている機器のみアラ

ムが鳴っている状況でした。検体保管庫では棚から検体が落ちてしまっていました。一通りの片づけを終え、電力の復旧を待ちましたがその日に復旧することはない、何もできないまま一日が終わってしまいました。翌朝を向いても停電の復旧のめどは立たず何もできないということ、一度実家に戻りました。すると神殿は漆喰の壁がすべて剥がれ落ち、食器なども割れて散乱したものを家族が片付けているところでした。また、家は基礎からずれてしまったようで、前の道をトラックが通るたびに振動で揺れてしまう状態になっていました。幸いにも家族皆ケガをしなかったことに安堵しました。

三日目の朝によく停電も復旧したので、会社へ戻り検査機器が正常に動作するか、試薬の劣化状況等を確認しました。停電中は気温が低かったこともあり試薬の劣化はそれほどなく、検査機器もほぼ正常に動



岩手県陸前高田市広田湾沿岸の被災地。沿岸向こうに「奇跡の一本松」が見える。



岩手県釜石市市街地の被災状況

作したので、いつでも検査は可能な状態にできました。しかし、再開した病院も少なく、検体を集めるための集材車が高速道路を使用するための「緊急車両通行許可証」を取得する必要があったり、試薬や消耗品の納品が何時になるのかわからなかったりと、なかなか上手く事が運びませんでした。流通の問題があったために今まで取引のなかった病院から纏まった数の検査を依頼されても、それまで取引の続いていた顧客の検体の検査を確実にを行うために断らなければならない状況もあり、必要な検査を受けられない患者さんがあることに検査技師としてはもどかしい日々がしばらく続き、今まで通りに業務が行えるまでには3か月ほどかかりました。

あれから5年の月日が流れ、多くの方々の御支援のおかげで内陸ではそれまでと変わらない生活ができています。また復興支援と

して多くの企業が工場や関連施設が建設され雇用面も震災前よりも良くなっています。しかし沿岸に目を向けると嵩上げ工事がようやく終わったところであったり、高速道路が途中までしか繋がっていないかったり、まだまだ時間がかかりそうな状況がみられます。また、住宅地が整備されても沿岸での安定した職業が少ないために、若い世代は内陸に定住してしまう状況となっています。

今年の春には熊本を中心として九州でも震災がありました。被災地域ではそれぞれに問題や課題が出ていることだと思えます。どちらの被災地でも、震災前の普通の生活に戻ることはないですが、一日でも早く、新しいコミュニティが形成され、普通の生活を送れるようになればと思います。



天理教岩手教区の災害救助隊による瓦礫の撤去作業

災害医療で臨床検査技師として 何ができるのか？

―東日本大震災での医療支援を体験して―

関西電力病院 臨床検査部技師長
神戸大学医学部保健学科臨床地教授
第15期生 佐藤 洋



2011年4月4日

2011年3月11日に発生した東日本大震災から25日たった4月4日、福島県で最大の避難所である郡山市にある「ビッグパレットふくしま」にいました。福島県立医科大学(以下、福島医大)が3月28日より高度医療緊急支援チームを編成し、避難所巡回活動を開始、そしてこの日は、「エコノミークラス症候群医療班」通称「チームエコ」が、本格的な活動を開始した初日でした。私はこの「チームエコ」の活動に、福島医大から要請を受け、下肢静脈超音波検査の検査要員として参加、この日から1週間、福島県内の避難所を巡ることとなりました。

下肢深部静脈血栓症評価における超音波の有用性と医療支援

下肢深部静脈血栓症(Deep vein thrombosis: DVT)から発症する肺血栓塞栓症は、避難所で突然死の原因となることが問題となっていました。進化を遂げた携帯型の

超音波検査は避難所にて検査できる唯一の画像検査です。私は、天理医学技術学校を卒業後、国立循環器病センターや京都大学病院に在籍し、血管エコの普及、レベルアップに尽力してきたので、こんな時に役に立ちたいと思い、東北各地の仕事仲間や、種々の学術団体の震災支援プロジェクト事務局と連日、意見交換をしていました。

福島医大からの電話

3月27日(日)、旧知の福島医大循環器内科医師から電話「福島医大で県内を巡ってDVTの健診するので佐藤さん、福島に来られる?」、切迫した感じが伝わってきます。血管エコのスペシャリストの人集めに奔走しました。「なんとか医療支援に行きたいと思っただけでも、どうやったら実現できるかわからなかった。声をかけてくれて嬉しい」、来てくれたメンバーの印象的な言葉です。

チームエコの活動

福島医大では行動マニュアルや物品の準備がなされてい



「チームエコ」のメンバー
2011年4月4日 ビッグパレットふくしまにて

備がなされていきました。連日変わるメンバー構成で、当日の朝、初顔合わせという状態ですが、業務内容が明確であったために避難所の現場で、業務が遂行できたのは、事前準備の素晴らしさだと感じました。場所ごとに異なった対応が必要で、皆工夫しながらの行動でした。

下肢静脈超音波検査ポケットガイド

福島から帰り、「下肢静脈エコ」の避難所での簡易検査マニュアルが必要であると強く感じていました。そこでA4用紙を折り畳みA7サイズとなるポケットガイドを作成しました。この資料の評判がよく、その後、日本心臓病学会や日本超音波医学会などのホームページで「避難所で実践する下肢静脈超音波検査ポケットガイド」として掲載してもらいました。このポケットガイドは、今年発生した熊本地震の医療班でも携行されていました。

最後に

災害医療の現場で、臨床検査技師が活躍する場があることを実感しました。

参考文献

- ① 佐藤洋・下肢静脈エコスクリーニングに参加した技師の立場から、超音波医学43(1):75-84, 2016
- ② 佐藤洋、高瀬信弥、高野真澄・避難所で実践する下肢静脈超音波検査について、日本超音波医学会ホームページ 2011. http://www.jsum.or.jp/info/east_japan/index.html



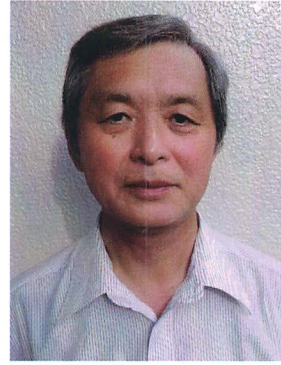
避難所にきてから寝たきりに近い状態になった女性を検査する。
"少し下肢浮腫ありますが血栓なしです" 東京医大DMATと行動を共にする
2011年4月6日 相馬市立中村第一小学校にて



下腿エコをする私 机のないところでは、椅子が机代わり
2011年4月4日 ビッグパレットふくしまにて

受け継ぐ伝統・つながる不思議

現 彦根市立病院臨床検査科
元 天理よろづ相談所病院臨床病理部
元 滋賀医科大学附属病院検査部主任
第5期生 五十川 静男



5期生について紹介します。卒業記念文集『フラスコ』に「引かれたレールの上を何か無事に通ってくれた模範生たち」と表現されています。何か型破りのない真面目人間の集まりの様に感じますが、学校創設五年目に入り安定した時期ですが一生懸命にやって来た良き仲間であり、チームワークのとれた学生でした。

さて、私は昭和四十八年「憩の家」に就職した一年目は心電図を担当しながら時間外検査の統一化ということで、市村さんを中心に特訓を重ねてメンバー七名がおやさと十二号館で協同生活をしながら宅直業務がスタートしました。幾多の問題点が出ていた時期に高橋先生を交えて夜遅くまで話し合っただけがあり、懐かしく思い出されます。そのあと暫くしてから当直体制へと移行してきます。二年目からは心カテ検査に携わることとなり、木田さんよりマン・ツー・マンで指導して頂き、技術を受け継ぐ大切さを学びました。技師の教育は技師の手で伝えるという天理特有の考え方に他なりません。のち

に人材育成に役立つことになり感謝しています。

昭和五十五年に新設の滋賀医科大学に移りました。業務の拡大に伴い、心エコー検査のルーチン化に取り組むことになり心カテ経験が役に立ちました。さらに当時は超音波分野で国立循環器病センターが活躍していました。その中心メンバーが増田さんをはじめ天理の卒業生達であったことは大変刺激になり、大いに勉強をさせてもらいました。

アナログからデジタル化への変遷は臨床検査の器械が自動化へと一気に進んでいくこととなります。この時期に山中亨先生より自動化によるブラックボックス化になることを危惧され、自動呼吸機能研究会を立ち上げるからと声を掛けて頂きました。第一回目の研修会を滋賀医大のスタッフが担当することとなり、資料作りに奔走しながらネーミングを「琵琶湖セミナー」と名付けました。



第5期生の卒業式

それ以降、この名前で全行的なセミナーに展開していくことになり、参加できたことを喜んでいきます。

最後に学会や研修会等へ出席した時に天理の出身者から声をかけられることがあり、懐かしさと同時に全国津々浦々で頑張っておられる姿に接して嬉しく、天理を離れていても受け継ぐ伝統とつながる不思議に今でも感銘を受けます。新たな気持ちで巣立った良き仲間の五期生もすでに定年を過ぎましたが、天理衛生検査技師学校の卒業生であることをいつまでも共に誇りたいです。

美しく老いる

元天理よろづ相談所病院臨床検査部
第9期生 鴻池 資啓



9期生の鴻池です。このような紙面を飾らせて頂き光栄に思っております。

時の経つのは早いもので『華の9期』と呼ばれた私たちの学年も還暦を迎える歳になりました。老けたとはいえ元気に60才になれば、色々な事に感謝する毎日です。しかし、若さを保つには限界を感じており、これから

は『美しく老いる』をテーマに余生を過ごしたいと考えています。さてそれはどうすれば良いのか、決して鏡を見て失望する事はありません。人は年齢を重ねてこそ完成されていくものです。まずは現実を受け入れる事から、若い人には負けを認める事から始めようと思っております。また、口一杯にサプリメントを頼るよりもまだまだ自分には『伸びしろ』があると信じて今までやってきた事に磨きをかけ、新しい事にも挑戦していきたいと考えています。これでは単なる初老の呟きになってしまいますが、後輩の方々へ老いるという事は決して悲しい事でも寂しい事でもないと言おう事をお伝えしておきます。

さて、我々検査技師の仕事で『老いる』とはどういう事を考えてみましょう。はるかに年上だった医師が同世代になり、年下になっていきます。一方自分は風貌に貫録が出て医学的な知識もそれなりに備わってきます。その時に検査結果のみならず、そこから診断にまで言及するといった『分』を超えた言動は慎むべきであり、我々はあくまでも検査の専門家であるという事を忘れてはなりません。特に経験の浅い医師は年配の技師の何気ない一言を信じ、患者さんに思わぬ不利益を与える可能性があるからです。

また、私は細胞診断に携わってきましたが、『解らない』という結果を報告し、細胞診検査の限界を伝える様にしています。この『解らない』は決して間違っている訳ではなく正しい判断だと思っておりますが、その症例を追跡し、原因を説明する義務を忘れては進歩も無く、信頼は得られません。若返りを謳う偽薬はよく耳にしますが、信頼を回復させる妙薬はありません。顔の皺と同じように信頼を積み重ねていける様頑張りましょう。

天理医学技術学校同窓会総会のご案内

今回の定期総会は同窓会創立50年の記念すべき総会となります。以下の要綱で行いますのでご参加ください。

- | | |
|----------------------------------|---|
| 日 時:平成29年3月25日(土)
10時～14時 | ③天理医学技術学校、天理看護学院、天理医療大学
三校同窓会の合併について |
| 会 場:天理駅前 ウェルカムハウス コトブキ | ②役員改選③同窓会活動報告、会計報告 |
| 内 容:総会、記念講演、懇親会 | ④その他 |
| 総会議題: | 参加費用:8,000円(会場費、懇親会費を含む) |
| ①天理医療大学卒業生の同窓会入会に関する
会則変更について | 最終案内は12月ごろに封書で改めてご案内申し上げます。
以上 |

定年を迎えて思うこと 後輩に伝えたい事

天理よろづ相談所病院
臨床検査部技師長

第8期生 岡山幸成



昨年の7月に還暦を迎え、もうすぐ定年退職することになりますが、長い間、ご指導いただいた先生や先輩方に心より感謝申し上げます。

この40年を振り返ってみると、1976年(教祖九十年祭)に南別館が開設され総合外来がスタートした翌年に私は入所させていただきました。最初は新血液室で生化学検査を担当しました。当時、外来患者の検査は、午前中に受け午後1時半までに報告する(迅速検査)ために検査は手法から自動化、システム化されつつあった。次に入院患者検体も当日報告するために、検査システムの更新が必要になり、1978年に、当時の臨床病理部副部長の松田先生と私が日立(茨城県)で3か月間、プログラム研修を受け、それから、システムの保守や開発・修正などを行い、時には徹夜してプログラム修正したことが懐かしく思い出されます。その後、1983年4棟移転時のシステム更新まで携わっていました。

1987～1990年は、生化学検査を担当していたこともあり、MRS(スペクトル)やMRI(イメージ)検査に出向していましたが、1991年に腹部超音波室に異動となり現在に至っています。このように入所してから生化学検査、検査システム、MRセンター、超音波検査と多くの部署の検査を担当させていただき、今では、臨床検査部全体を見る立場にあり、これまでの経験が随分と役立つと思っています。

私は、天理医学技術学校時代から、現在まで憩の家のサッカー部に所属し、学生時代から先輩技師だけでなく、病院の多くの医師、他職種の方と交流を持つことができ、就職してからも仕事の面などで色々と多くのアドバイスを頂きました。このように周囲の人に恵まれ今日まで無事勤めてこれましたことを深く感謝しております。

最後に、後輩の皆さまへ

①仕事、勉強、スポーツなど何事においても、順調な時ばかりではなく、しんどくつらい時が必ずあります。その時にダメと諦めず、どうすれば乗り切ることができるか考え行動することが成長に繋がります。そのような時を逆に「チャンス」と思って頑張ってください。

②上司や先輩方から言われたことだけをやるのではなく、何か付加価値をつけることで、相手に喜ばれ、また次のチャンスが与えられます。

③「気付き力」ある技師を目指し、物事への深く強い意識と物事を見る視点の幅広さを向上させ、気付きから何を考え、どう行動するかの繰り返しが大切です。

私が入所した当時の臨床検査技師は、検査をいかに正確に早く報告することでしたが、現在では、検査室の枠を越えて検査説明など活動の場が広がってきております。今後、さらに医療により役立つ臨床検査技師、臨床工学技士を目指し、チーム医療に貢献できることを期待しております。



第8～10期生 天理よろづ相談所病院「院長杯」に天理医学技術学校の野球チームとして参加。この学生野球の伝統は**期生まで続く。最前列左側が岡山さん(8期生卒業アルバムより)

編集後記

同窓会の事務局を担当しまして早5年が経過しようとしています。同窓生の皆様のおかげにより、同窓会報「一手一つ」も毎年滞りなく発行することができました。大学に移行してからは、医技校職員室で保管されていた各期の卒業アルバムや学生自治会室にあったキャンブ、臨検祭などの自治会活動をつづつたアルバムは同窓会へ移行し、天理医療大学の同窓会室で保管しています。現役員から発行します「一手一つ」はこれにて終了となりますが、可能であれば継続いただければ幸いです。それでは皆様、来年3月の総会にてお会いいたしましょう。

同窓会事務局(23期生)小松 方